

2025年度の生乳及び牛乳乳製品の 需給見通しと課題について

2025年9月12日



一般社団法人 Jミルク
Japan Dairy Association (J-milk)

本見通しの趣旨

本見通しは、ARIMA モデル（短期予測モデル）から得られた推計値ならびに関係者からのヒアリング等に基づき算出したものであり、酪農乳業界としての需給に係る課題を抽出し、その課題対応の取り組みや検討の協議に資することを目的としている。

※業界としての今後の需要拡大に係る取り組み等、現時点で推計したり、成果を見通したりすることが困難な要素については加味していない。

本見通しの前提

1. 生乳生産予測（P 3～4 の説明）

- （1）北海道及び都府県の予測値は、2025 年 5 月までの生乳生産量データに基づき、累積気温や乳牛頭数（搾乳牛頭数・妊娠頭数）等の要因変数を ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルによる推計値を基本に算出。なお、2025 年度の夏場の気温は、「猛暑」設定をベースに直近の気温の傾向などを反映して試算。
- （2）要因変数として採用している搾乳牛頭数は、家畜改良センターの月齢別乳用雌牛頭数（速報値）を基に、季節当月ごとの月齢推移確率（X ヶ月齢の乳用牛について、前月の X-1 ヶ月齢からの平均残存率）を求めて推計。妊娠頭数は、授精頭数及び累積気温等の要因変数を ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルにより推計（AR による推計）。

2. 月齢別乳用雌牛頭数の推移と出生頭数（P 5～6 の説明）

家畜改良センターの月齢別乳用雌牛頭数（速報値）を基に、季節月ごとの月齢推移確率（X ヶ月齢の乳用牛について前月の X-1 ヶ月齢からの平均残存率）を求め推計。出生頭数（実績）は家畜改良センターの乳用雌牛頭数（速報値）をまとめた。

3. 牛乳等生産量予測（P 7～9 の説明）

各々の予測値は、2025 年 5 月までの生産量データに基づき、人口、価格、累積気温、平日日数等の要因変数、ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルによる推計値を基本に算出。さらに、直近の小売 P O S データで確認された変化動向等も考慮した。なお、2025 年度の夏場の気温は、「猛暑」で試算した。

4. 用途別処理量予測（P 10～12 の説明）

- （1）生乳供給量は、生乳生産量から自家消費量を差し引いて算出。
- （2）自家消費量は、各地域の直近までの動向を踏まえ設定。
- （3）飲用等向処理量は、牛乳、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を基に、最近の生乳使用係数を乗じ算出。

5. 脱脂粉乳・バター需給予測（P 13～14 の説明）

- （1）脱脂粉乳・バターの生産量は、脱脂粉乳・バター等向処理予測数量に、直近の動向等を反映した製造係数（これらの製品単位あたりに実際に使用された生乳数量）を乗じて算出。
- （2）脱脂粉乳・バターの推定出回り量は、2025 年 5 月までの推定出回り量データに基づき、発酵乳の動向等の要因変数を ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルによる推計値を基本に算出。
- （3）脱脂粉乳・バターの在庫月数は、直近 1 年間の出回り量実績の 1 ヶ月平均を基に算出。

6. 都府県生乳需給予測 (P15の説明)

- (1)「移入必要量(道外移出量)」は、都府県不足量の補完と、北海道ブランド牛乳製造のための必要乳量等を基本に算出。
- (2)「脱脂粉乳・バター等向処理量」は、「A-B-C」+「移入量」-「移出量」で算出。過去5年間の最低数量や直近の需給状況並びに北海道における脱脂粉乳・バター等仕向の処理能力を加味して算出。

※生乳取引価格引き上げに伴う牛乳・乳製品価格改定の影響について

本見通しでは、2025年6月からの乳製品向け生乳取引価格引き上げ、2025年8月からの飲用等向け生乳取引価格引き上げに伴う製品価格改定による需要の減少について、牛乳乳製品の価格と需要の相関を企業物価指数と販売記録データ(POSデータ)、牛乳乳製品統計などを用いて検討し、ARIMAモデルで予測した。

企業物価指数の飲料または食料全体に対する各カテゴリの相対価格指数を算出し、製品価格が下表のとおり改定したときの需要量を予測した。

※企業物価指数

日本銀行公表。企業間で取引される財を対象としている。品質を固定した商品(財)の価格を継続的に調査し、現時点の価格を、基準時点(2020年)の価格を100として指数化したもの。企業間で取り引きされる商品の価格を指数化した物価指数のこと。

※参考 価格改定率

	価格改定率
牛乳	+6%
加工乳	+6%
成分調整牛乳	+6%
乳飲料	+6%
はっ酵乳	+6%
チーズ向	+4%
生クリーム等向	+9%
脱脂粉乳(出回り)	+3%
バター(出回り)	+10%

1. 地域別生乳生産量の動向

表1-1：2024年度の地域別生乳生産量（網掛け：実績）

（千トン）

	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4 月	635	101.1%	356	101.9%	280	100.1%
5 月	656	101.0%	371	101.3%	284	100.6%
6 月	616	99.5%	352	98.9%	264	100.3%
7 月	606	98.3%	356	99.1%	251	97.2%
8 月	592	100.3%	352	102.7%	240	97.0%
9 月	579	101.0%	344	103.5%	235	97.6%
10 月	606	101.4%	354	103.4%	252	98.7%
11 月	589	101.8%	341	103.3%	248	99.7%
12 月	616	101.2%	357	103.0%	259	98.8%
1 月	632	101.9%	365	103.9%	267	99.2%
2 月	583	98.2%	337	100.3%	247	95.4%
3 月	661	102.3%	379	104.5%	282	99.6%
第1 四半期	1,907	100.5%	1,079	100.7%	828	100.3%
第2 四半期	1,778	99.9%	1,052	101.7%	726	97.3%
第3 四半期	1,811	101.4%	1,052	103.2%	759	99.1%
第4 四半期	1,877	100.9%	1,081	103.0%	796	98.1%
上期	3,685	100.2%	2,131	101.2%	1,554	98.9%
下期	3,688	101.1%	2,133	103.1%	1,555	98.6%
年度計	7,373	100.7%	4,264	102.1%	3,109	98.7%

表1-2：2025年度の地域別生乳生産量（見通し）

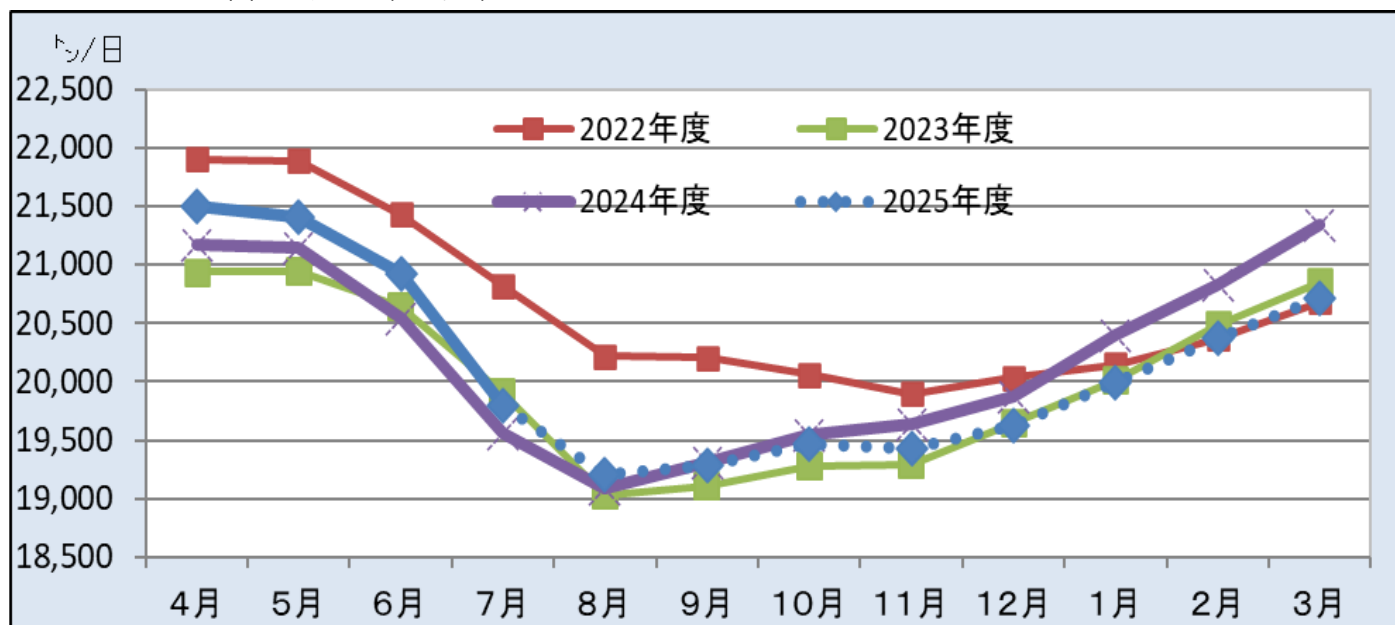
（千トン）

	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4 月	645	101.5%	366	102.9%	279	99.7%
5 月	663	101.2%	379	102.2%	284	99.8%
6 月	628	101.9%	366	103.8%	262	99.3%
7 月	614	101.2%	363	102.1%	251	99.9%
8 月	596	100.6%	357	101.5%	238	99.3%
9 月	579	99.9%	344	100.0%	234	99.7%
10 月	604	99.6%	353	99.8%	250	99.3%
11 月	583	99.0%	339	99.4%	244	98.3%
12 月	608	98.7%	354	99.2%	254	98.1%
1 月	620	98.0%	360	98.5%	260	97.4%
2 月	570	97.8%	330	98.0%	241	97.5%
3 月	642	97.1%	369	97.4%	273	96.8%
第1 四半期	1,936	101.5%	1,111	103.0%	825	99.6%
第2 四半期	1,788	100.6%	1,065	101.2%	723	99.6%
第3 四半期	1,795	99.1%	1,046	99.5%	748	98.6%
第4 四半期	1,833	97.6%	1,059	98.0%	773	97.2%
上期	3,724	101.1%	2,176	102.1%	1,548	99.6%
下期	3,627	98.3%	2,106	98.7%	1,522	97.9%
年度計	7,352	99.7%	4,281	100.4%	3,070	98.7%

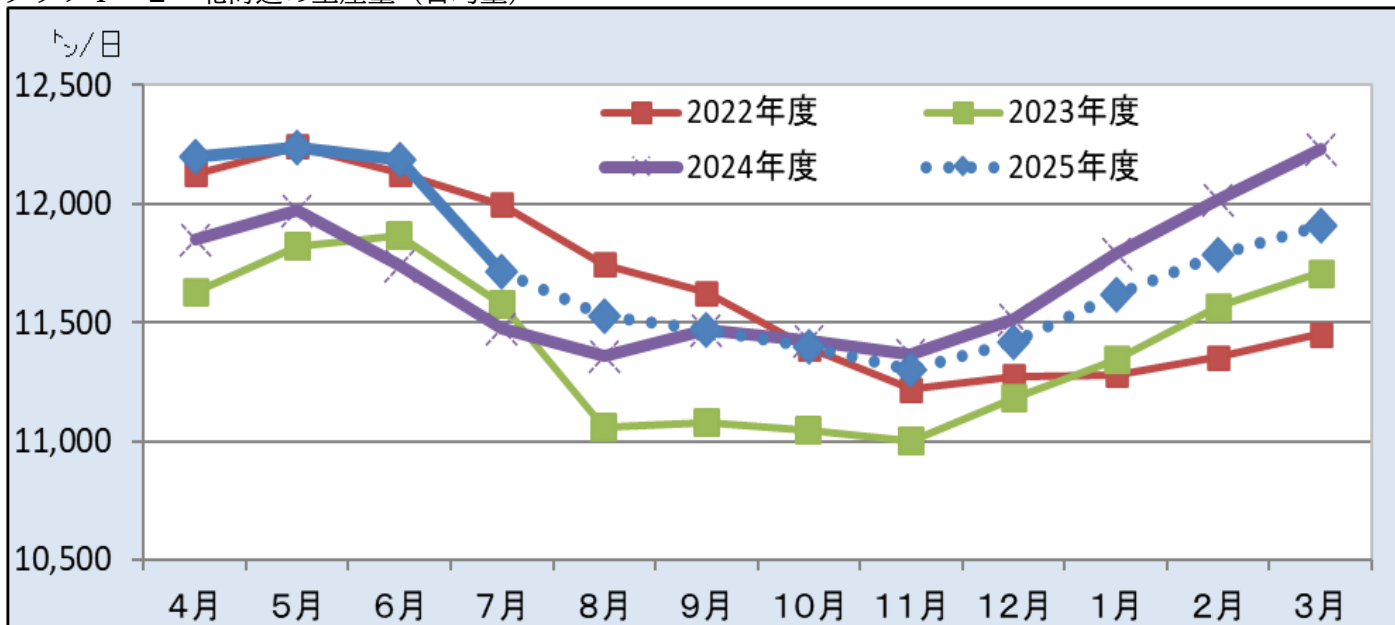
【2025年度生乳生産の見通し】 全国 7,352 千トン・前年比 99.7%、北海道 4,281 千トン・同 100.4%、都府県 3,070 千トン・同 98.7%の見通し。都府県は 4 年連続の減産、北海道は 2 年連続の増産、全国は 2 年ぶりの減産となる見込み。

【前回見通し(5/30)公表】 全国 7,335 千トン・前年比 99.5%、北海道 4,282 千トン・同 100.4%、都府県 3,053 千トン・同 98.2%。

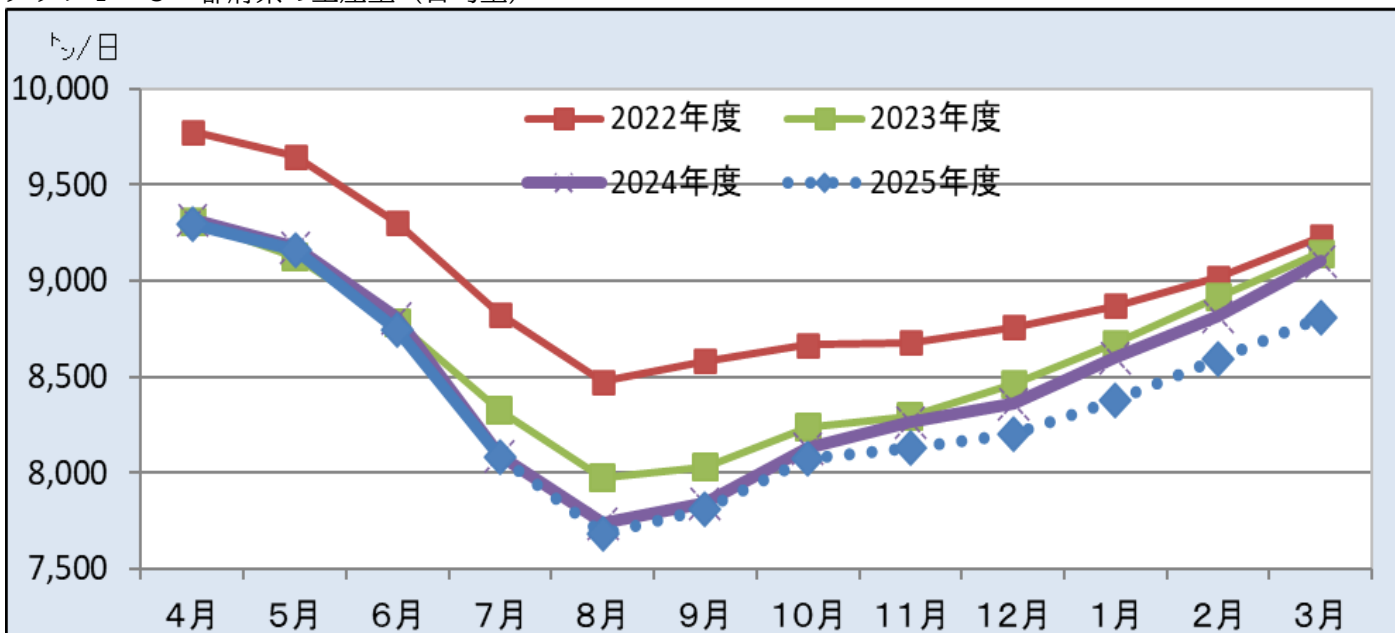
グラフ 1－1：全国の生産量（日均量）



グラフ 1－2：北海道の生産量（日均量）

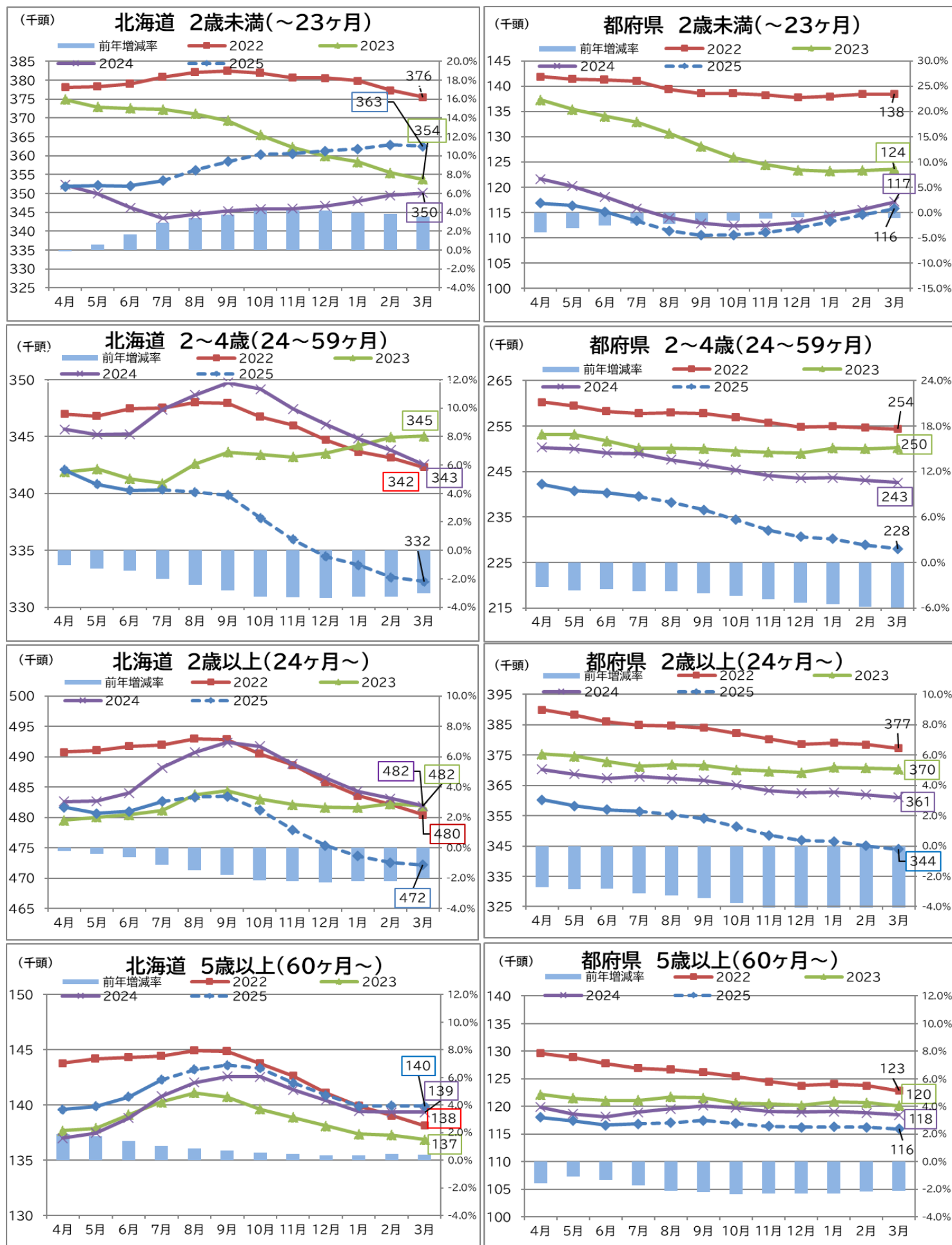


グラフ 1－3：都府県の実生産量（日均量）

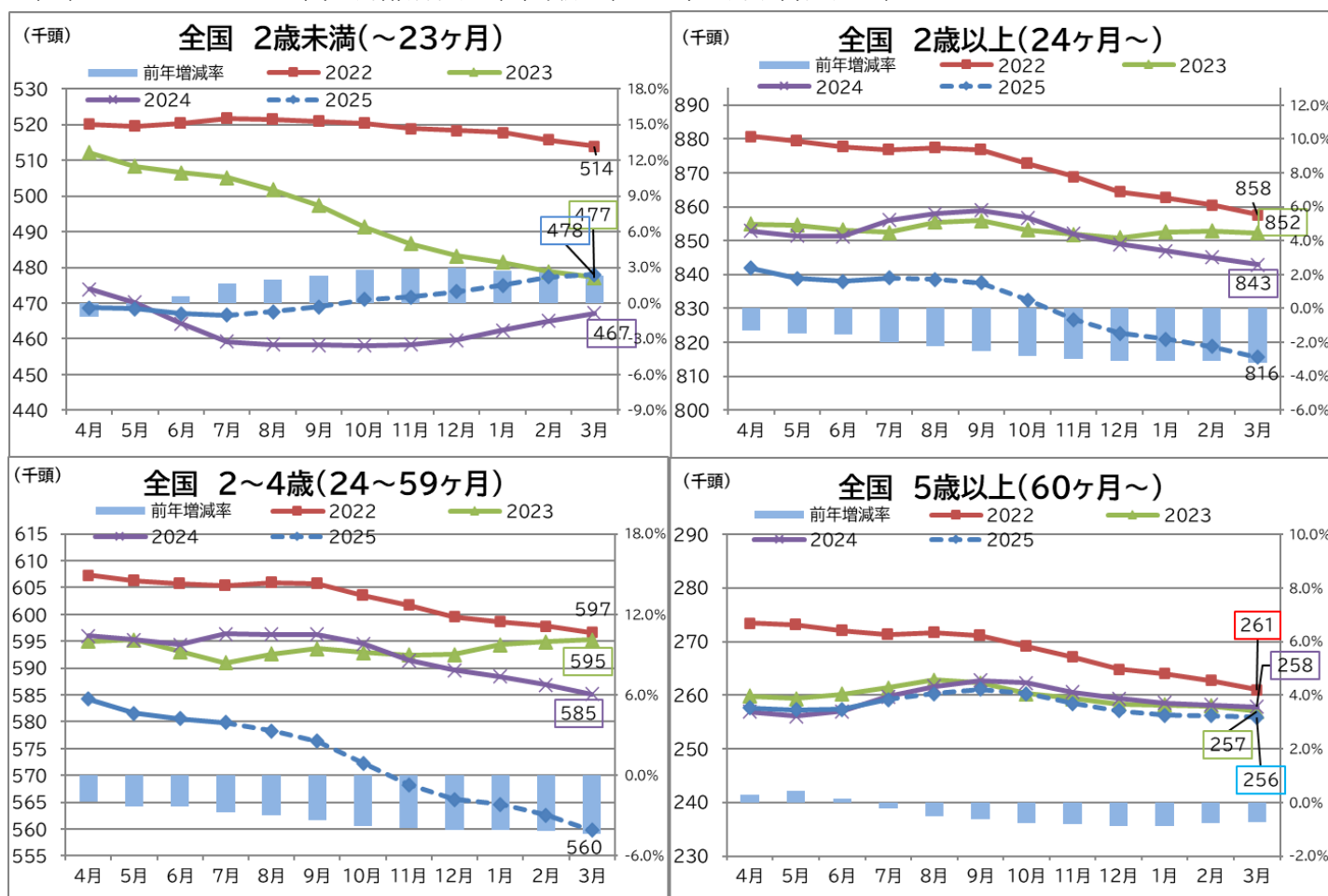


2. 月齢別乳用雌牛頭数の推移と出生頭数

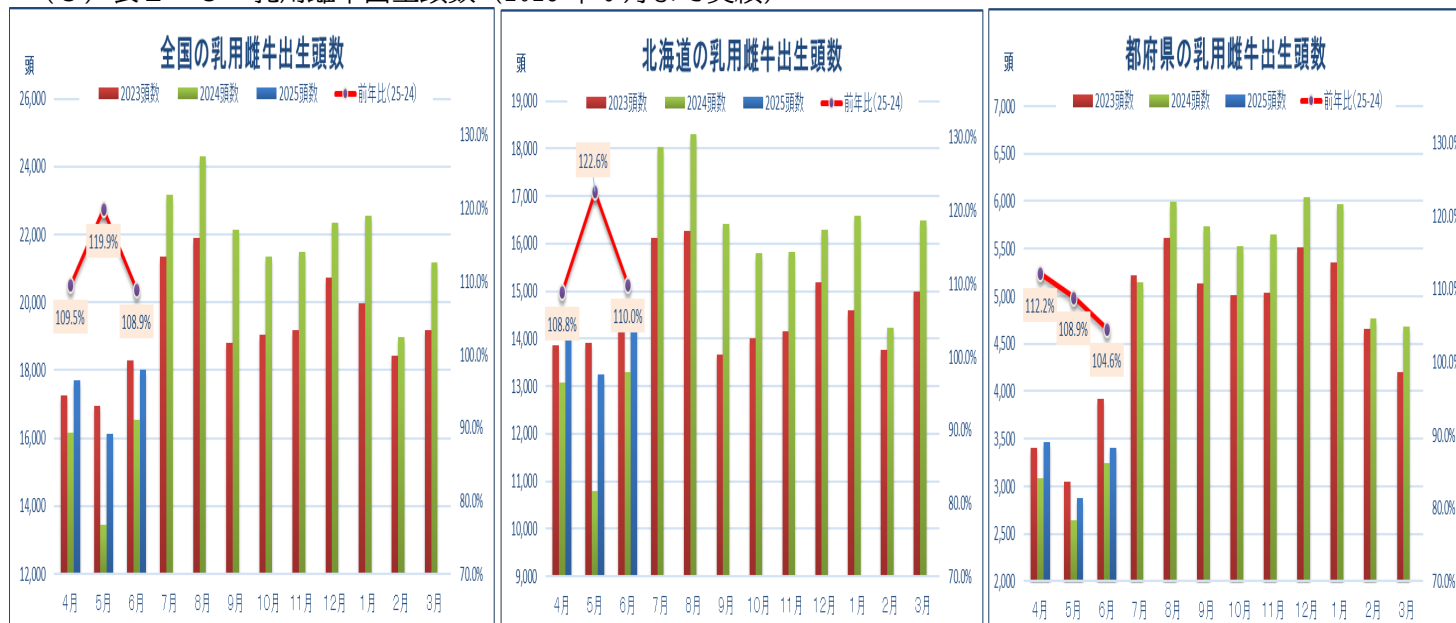
(1) グラフ2-1：北海道と都府県の月齢別乳用雌牛頭数（2025年8月以降見通し）



(2) グラフ2-2：全国の月齢別乳用雌牛頭数（2025年8月以降見通し）



(3) 表2-3：乳用雌牛出生頭数（2025年6月まで実績）



【2025年度の乳用雌牛頭数について】

- ・2歳未満頭数(3月末時点)は、北海道で約13千頭増加する一方、都府県で約1千頭減少する見通し。搾乳牛となる2歳以上頭数(3月末時点)は、北海道で約10千頭、都府県で約17千頭減少する見通し。北海道では、主力となる2~4歳頭数が10月以降大きく減少する見通し。
- ・2025年度の乳用雌牛出生頭数実績(4-5月累計)は、北海道は前年比113.3%、都府県は同108.5%、全国では112.3%といずれも前年を上回って推移している。

3. 牛乳等生産量の動向

表3-1：2024年度の牛乳等生産量（網掛け：実績）

（千kl）

	牛乳類															加工乳	成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
	牛乳				学乳		学乳以外		うち、業務用		うち、業務用以外											
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比											
4 月	363	98.0%	250	98.7%	26	99.0%	224	98.6%	22	97.6%	201	98.8%	12	102.5%	18	91.8%	83	96.9%	87	104.8%		
5 月	383	97.5%	264	98.2%	35	100.4%	229	97.9%	21	96.1%	208	98.1%	12	104.7%	19	90.5%	88	96.1%	90	104.9%		
6 月	380	98.1%	265	99.9%	36	97.1%	229	100.3%	20	104.8%	209	99.9%	10	97.2%	18	90.9%	86	94.7%	86	99.8%		
7 月	383	96.6%	261	97.9%	23	101.1%	238	97.6%	21	100.8%	217	97.3%	11	103.9%	19	88.2%	92	94.0%	90	103.5%		
8 月	372	96.4%	248	99.7%	5	83.1%	243	100.2%	22	100.0%	221	100.2%	12	101.8%	19	89.9%	93	89.2%	88	104.9%		
9 月	390	98.0%	270	99.9%	33	96.1%	236	100.5%	23	104.1%	213	100.1%	12	99.9%	18	88.3%	91	94.6%	86	101.3%		
1 0 月	398	99.8%	274	100.9%	37	101.7%	238	100.8%	25	100.7%	212	100.8%	13	98.8%	18	93.4%	92	98.1%	89	106.6%		
1 1 月	368	99.4%	258	101.2%	34	100.4%	224	101.3%	25	101.2%	198	101.3%	14	103.5%	17	93.1%	80	94.7%	85	109.0%		
1 2 月	354	99.0%	247	100.3%	28	104.0%	220	99.9%	25	96.4%	195	100.3%	14	99.8%	17	92.5%	76	96.0%	82	109.5%		
1 月	357	99.3%	250	100.4%	30	99.2%	221	100.6%	21	99.2%	200	100.7%	13	106.8%	17	95.1%	77	95.8%	88	112.5%		
2 月	333	96.0%	237	97.9%	32	95.5%	205	98.3%	21	97.1%	184	98.5%	12	100.4%	16	90.8%	68	90.3%	80	103.4%		
3 月	355	99.4%	247	100.9%	21	102.4%	225	100.8%	23	100.4%	202	100.8%	12	94.9%	17	94.4%	79	96.5%	88	103.7%		
第1 四半期	1,126	97.9%	779	98.9%	98	98.8%	682	98.9%	64	99.2%	618	98.9%	35	101.6%	55	91.1%	257	95.9%	263	103.1%		
第2 四半期	1,145	97.0%	779	99.2%	61	96.6%	718	99.4%	67	101.7%	651	99.2%	34	101.8%	56	88.8%	276	92.5%	264	103.2%		
第3 四半期	1,120	99.4%	779	100.8%	98	101.9%	681	100.7%	75	99.4%	605	100.8%	41	100.7%	52	93.0%	248	96.3%	256	108.3%		
第4 四半期	1,045	98.3%	734	99.8%	83	98.5%	652	99.9%	66	98.9%	586	100.0%	37	100.6%	50	93.5%	224	94.3%	256	106.5%		
上期	2,272	97.4%	1,558	99.1%	159	97.9%	1,399	99.2%	131	100.5%	1,269	99.0%	69	101.7%	111	89.9%	533	94.1%	527	103.2%		
下期	2,165	98.8%	1,513	100.3%	181	100.3%	1,332	100.3%	141	99.2%	1,191	100.4%	78	100.6%	102	93.2%	472	95.3%	513	107.4%		
年度計	4,437	98.1%	3,072	99.7%	340	99.2%	2,732	99.7%	272	99.8%	2,460	99.7%	148	101.1%	213	91.5%	1,005	94.7%	1,040	105.2%		

表3-2：2025年度の牛乳等生産量（見通し）

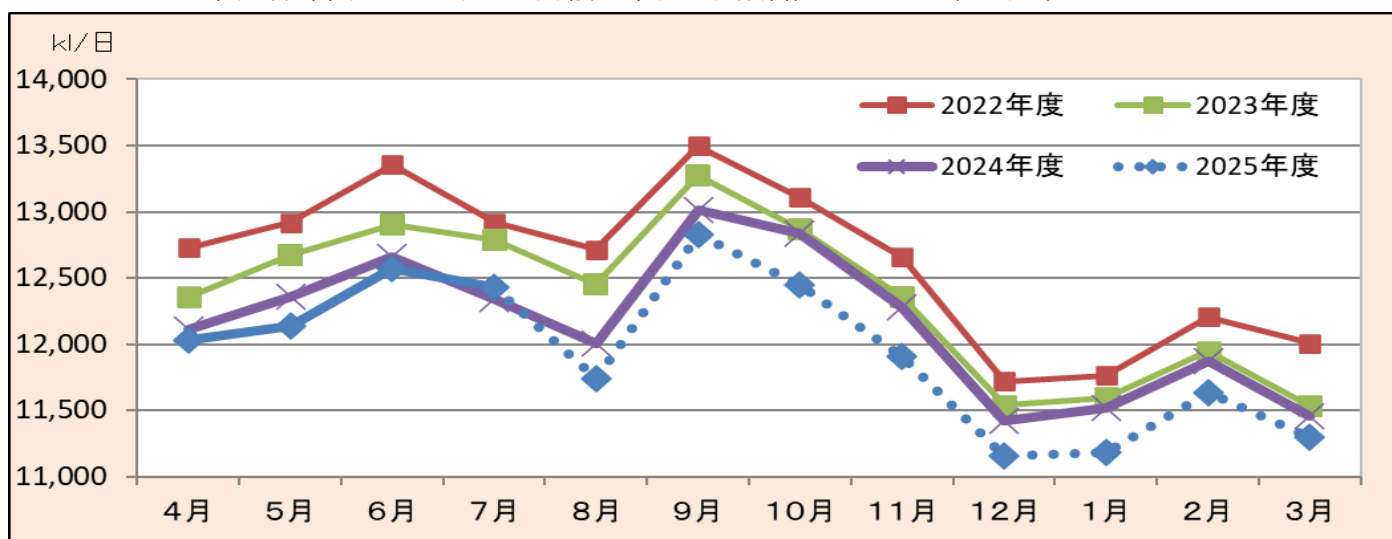
（千kl）

	牛乳類															加工乳	成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
	牛乳				学乳		学乳以外															
							うち、業務用		うち、業務用以外													
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比													
4月	361	99.3%	250	100.1%	27	101.0%	223	100.0%	23	102.5%	201	99.7%	11	93.9%	17	93.8%	83	99.0%	88	100.5%		
5月	376	98.2%	263	99.4%	34	96.4%	229	99.8%	21	99.9%	207	99.8%	11	92.8%	17	93.3%	85	96.6%	90	99.7%		
6月	377	99.3%	264	99.7%	37	101.5%	228	99.5%	20	96.8%	208	99.7%	11	104.2%	17	93.5%	85	98.6%	89	103.9%		
7月	385	100.7%	263	100.9%	23	100.1%	241	101.0%	20	94.1%	221	101.6%	11	103.4%	18	94.6%	93	101.1%	91	101.8%		
8月	364	97.8%	245	98.6%	6	109.2%	239	98.4%	22	99.3%	217	98.3%	11	99.1%	18	93.6%	90	96.5%	88	99.8%		
9月	385	98.5%	267	98.9%	34	101.9%	233	98.5%	23	100.2%	209	98.3%	12	97.9%	17	94.6%	89	98.2%	87	101.5%		
10月	386	96.9%	269	98.1%	36	99.3%	233	97.9%	25	99.5%	207	97.8%	12	93.1%	17	90.4%	88	95.3%	88	99.3%		
11月	357	97.0%	252	97.7%	32	94.4%	220	98.3%	25	98.6%	195	98.2%	12	88.6%	15	88.1%	78	97.8%	83	97.6%		
12月	346	97.7%	244	98.7%	28	100.7%	216	98.4%	24	99.4%	192	98.3%	13	89.4%	14	87.4%	75	98.2%	80	97.2%		
1月	347	97.0%	246	98.1%	29	98.6%	216	98.0%	21	98.7%	196	97.9%	12	89.1%	15	87.5%	74	97.0%	84	95.3%		
2月	326	98.0%	233	98.5%	32	99.6%	202	98.3%	20	95.3%	181	98.6%	11	91.0%	14	90.6%	68	99.1%	80	100.4%		
3月	350	98.6%	245	99.2%	22	102.5%	223	98.9%	23	100.0%	200	98.7%	12	94.8%	15	90.3%	78	99.2%	89	101.2%		
第1四半期	1,115	98.9%	777	99.7%	97	99.5%	680	99.8%	64	99.8%	616	99.7%	34	96.6%	51	93.5%	252	98.1%	267	101.3%		
第2四半期	1,134	99.0%	775	99.5%	62	101.8%	713	99.3%	65	98.0%	647	99.4%	34	100.1%	53	94.3%	272	98.6%	267	101.0%		
第3四半期	1,089	97.2%	765	98.2%	97	98.0%	668	98.2%	75	99.2%	594	98.1%	37	90.3%	46	88.7%	241	97.0%	251	98.1%		
第4四半期	1,023	97.9%	724	98.6%	83	100.0%	641	98.4%	64	98.1%	577	98.4%	34	91.6%	45	89.4%	220	98.4%	254	98.9%		
上期	2,249	99.0%	1,552	99.6%	159	100.4%	1,393	99.5%	129	98.9%	1,263	99.6%	68	98.3%	105	93.9%	524	98.3%	534	101.2%		
下期	2,112	97.5%	1,489	98.4%	179	98.9%	1,310	98.3%	139	98.6%	1,170	98.3%	71	90.9%	90	89.0%	461	97.7%	505	98.5%		
年度計	4,360	98.3%	3,041	99.0%	339	99.6%	2,702	98.9%	268	98.8%	2,434	98.9%	139	94.4%	195	91.6%	985	98.0%	1,039	99.9%		

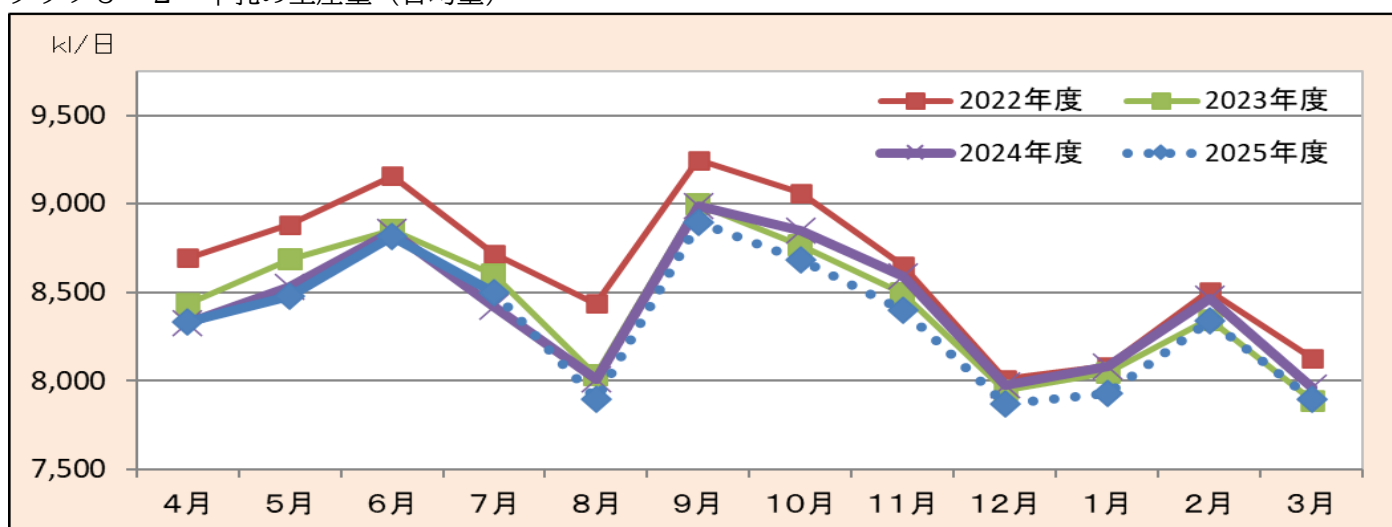
【2025年度の牛乳等生産量の見通し】 牛乳類は4,360千kl・前年比98.3%。内訳として、牛乳3,041千kl・同99.0%、加工乳139千kl・同94.4%、成分調整牛乳195千kl・同91.6%、乳飲料985千kl・同98.0%。はっ酵乳1,039千kl・同99.9%の見通し。

【前回見通し(5/30)公表】 牛乳類は4,367千kl・前年比98.4%。内訳として牛乳3,046千kl・同99.1%、加工乳144千kl・同97.8%、成分調整牛乳204千kl・同95.8%、乳飲料973千kl・同96.8%。はっ酵乳1,039千kl・同99.9%。

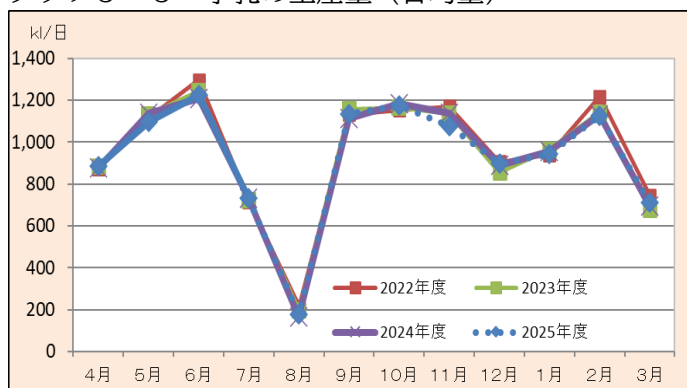
グラフ 3－1：牛乳類（牛乳・加工乳・成分調整牛乳・乳飲料）の生産量（日均量）



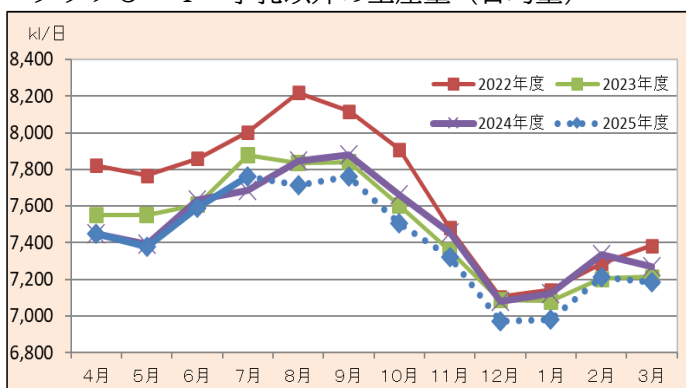
グラフ 3－2：牛乳の生産量（日均量）



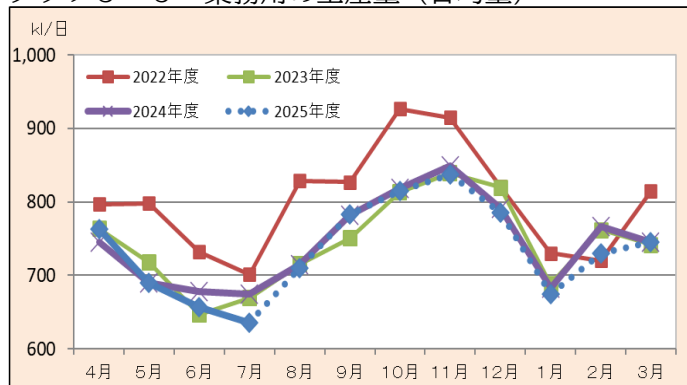
グラフ 3－3：学乳の生産量（日均量）



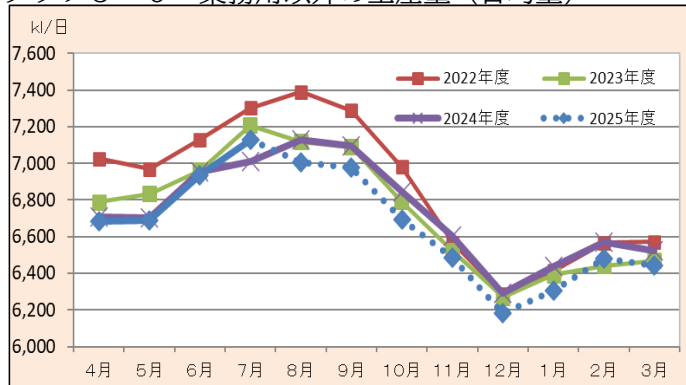
グラフ 3－4：学乳以外の生産量（日均量）



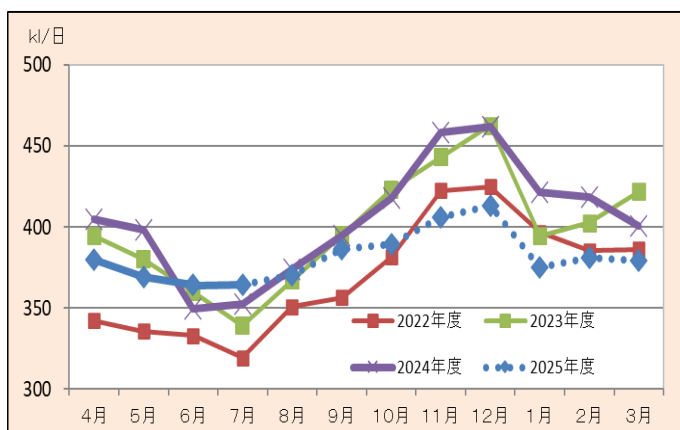
グラフ 3－5：業務用の生産量（日均量）



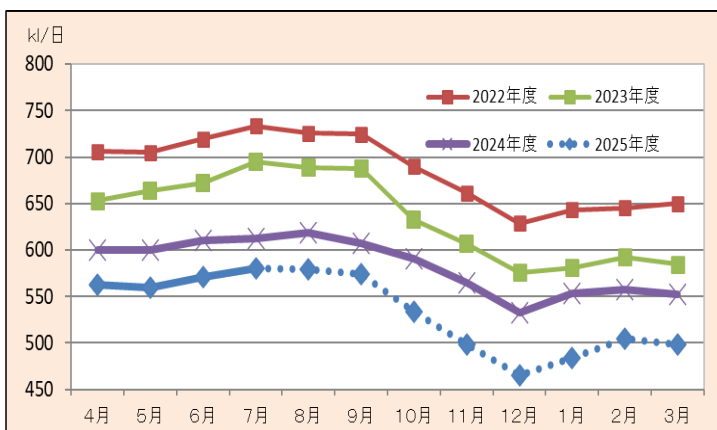
グラフ 3－6：業務用以外の生産量（日均量）



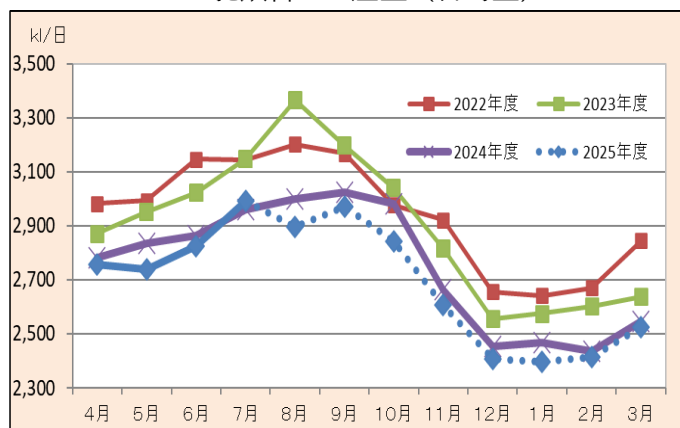
グラフ 3－7：加工乳の生産量（日均量）



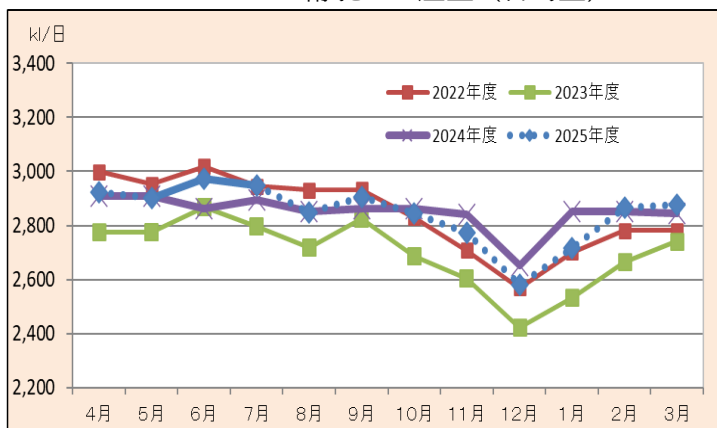
グラフ 3－8：成分調整牛乳の生産量（日均量）



グラフ 3－9：乳飲料の生産量（日均量）



グラフ 3－10：はっ酵乳の生産量（日均量）



4. 用途別処理量の動向

表4-1：2024年度の生乳供給量及び用途別処理量（網掛け：実績）

（千トン）

	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		飲用等向		乳製品向 （認定ベース）		脱脂粉乳・バター等向		チーズ向		生クリーム等向	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
4月	635	101.1%	4	100.5%	631	101.1%	316	98.3%	315	104.1%	176	107.8%	38	97.6%	102	100.6%
5月	656	101.0%	4	105.2%	651	101.0%	335	98.5%	317	103.7%	175	105.4%	39	102.5%	102	101.3%
6月	616	99.5%	4	94.0%	612	99.5%	337	99.8%	276	99.2%	136	94.6%	39	109.7%	101	102.1%
7月	606	98.3%	4	107.7%	602	98.2%	331	97.4%	272	99.3%	131	98.1%	35	92.5%	106	103.3%
8月	592	100.3%	4	99.8%	588	100.3%	320	99.6%	268	101.2%	131	102.1%	35	100.7%	102	100.4%
9月	579	101.0%	4	96.8%	576	101.1%	335	98.6%	240	104.7%	111	120.4%	28	87.4%	101	96.2%
10月	606	101.4%	4	109.2%	602	101.3%	344	100.5%	258	102.5%	123	109.7%	33	95.6%	103	97.0%
11月	589	101.8%	4	96.4%	585	101.8%	322	101.3%	263	102.4%	124	106.0%	33	100.5%	105	99.1%
12月	616	101.2%	3	91.3%	613	101.2%	308	100.2%	305	102.3%	166	102.4%	37	103.5%	102	101.8%
1月	632	101.9%	4	80.2%	629	102.0%	316	100.6%	312	103.5%	174	104.9%	37	99.2%	102	102.6%
2月	583	98.2%	4	85.6%	580	98.3%	298	97.5%	282	99.1%	154	100.2%	34	99.2%	95	97.4%
3月	661	102.3%	4	90.8%	658	102.4%	319	102.0%	339	102.8%	196	104.6%	38	100.0%	105	100.4%
第1四半期	1,907	100.5%	12	99.9%	1,895	100.6%	987	98.9%	908	102.4%	487	102.9%	116	103.1%	305	101.3%
第2四半期	1,778	99.9%	12	101.3%	1,766	99.8%	986	98.5%	780	101.6%	373	105.3%	98	93.7%	309	99.9%
第3四半期	1,811	101.4%	11	98.8%	1,800	101.5%	974	100.7%	826	102.4%	414	105.6%	102	99.9%	310	99.2%
第4四半期	1,877	100.9%	11	85.3%	1,866	101.0%	933	100.1%	933	101.9%	523	103.4%	108	99.5%	302	100.2%
上期	3,685	100.2%	24	100.6%	3,661	100.2%	1,973	98.7%	1,688	102.0%	860	103.9%	214	98.5%	614	100.6%
下期	3,688	101.1%	22	91.7%	3,667	101.2%	1,907	100.4%	1,759	102.1%	937	104.3%	211	99.7%	612	99.7%
年度計	7,373	100.7%	45	96.1%	7,328	100.7%	3,881	99.5%	3,447	102.1%	1,797	104.1%	424	99.1%	1,226	100.2%

表4-2：2025年度の生乳供給量及び用途別処理量（見通し）

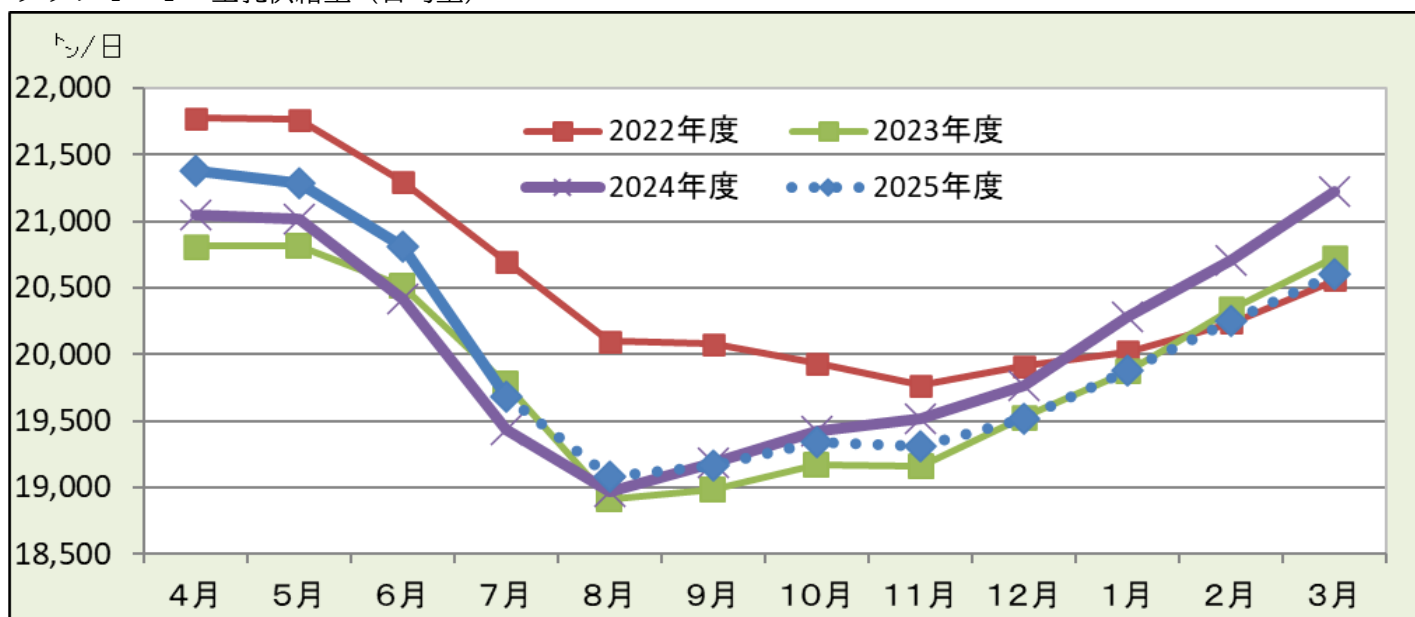
（千トン）

	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		飲用等向		乳製品向 （認定ベース）		脱脂粉乳・バター等向		チーズ向		生クリーム等向	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
4月	645	101.5%	4	90.9%	641	101.6%	317	100.3%	324	102.8%	184	105.0%	39	103.4%	101	98.9%
5月	663	101.2%	4	85.4%	660	101.3%	334	99.7%	326	103.0%	180	103.0%	40	102.0%	106	103.4%
6月	628	101.9%	4	92.9%	624	101.9%	333	99.0%	291	105.5%	154	113.0%	38	97.1%	99	98.6%
7月	614	101.2%	4	92.8%	610	101.3%	337	101.8%	274	100.6%	137	104.1%	34	98.4%	103	97.0%
8月	596	100.6%	4	100.3%	592	100.6%	314	98.2%	277	103.4%	139	106.0%	35	100.3%	103	101.2%
9月	579	99.9%	4	99.5%	575	99.9%	331	98.8%	244	101.4%	108	97.3%	32	114.2%	103	102.3%
10月	604	99.6%	4	99.0%	600	99.6%	335	97.6%	264	102.2%	129	104.8%	32	99.7%	103	99.9%
11月	583	99.0%	4	98.4%	579	99.0%	313	97.2%	266	101.2%	130	104.5%	32	96.3%	104	98.8%
12月	608	98.7%	3	98.3%	605	98.7%	301	97.9%	304	99.5%	168	101.0%	35	94.6%	101	99.0%
1月	620	98.0%	3	97.6%	616	98.0%	308	97.3%	309	98.8%	174	100.5%	36	97.6%	98	96.5%
2月	570	97.8%	3	97.2%	567	97.8%	293	98.1%	275	97.4%	150	97.5%	33	98.2%	92	97.0%
3月	642	97.1%	3	96.7%	639	97.1%	315	98.8%	324	95.5%	183	93.5%	37	97.6%	103	98.6%
第1四半期	1,936	101.5%	11	89.6%	1,925	101.6%	984	99.7%	942	103.7%	519	106.5%	117	100.8%	306	100.3%
第2四半期	1,788	100.6%	11	97.5%	1,777	100.6%	982	99.6%	794	101.8%	383	102.7%	101	103.7%	309	100.1%
第3四半期	1,795	99.1%	11	98.6%	1,784	99.1%	950	97.6%	834	100.9%	427	103.2%	99	96.8%	308	99.2%
第4四半期	1,833	97.6%	10	97.2%	1,822	97.6%	915	98.1%	907	97.2%	507	97.0%	106	97.8%	294	97.4%
上期	3,724	101.1%	22	93.5%	3,702	101.1%	1,966	99.6%	1,736	102.8%	902	104.9%	218	102.1%	615	100.2%
下期	3,627	98.3%	21	97.9%	3,606	98.4%	1,865	97.8%	1,741	98.9%	934	99.7%	205	97.3%	601	98.3%
年度計	7,352	99.7%	43	95.6%	7,308	99.7%	3,832	98.7%	3,476	100.8%	1,836	102.2%	423	99.7%	1,217	99.3%

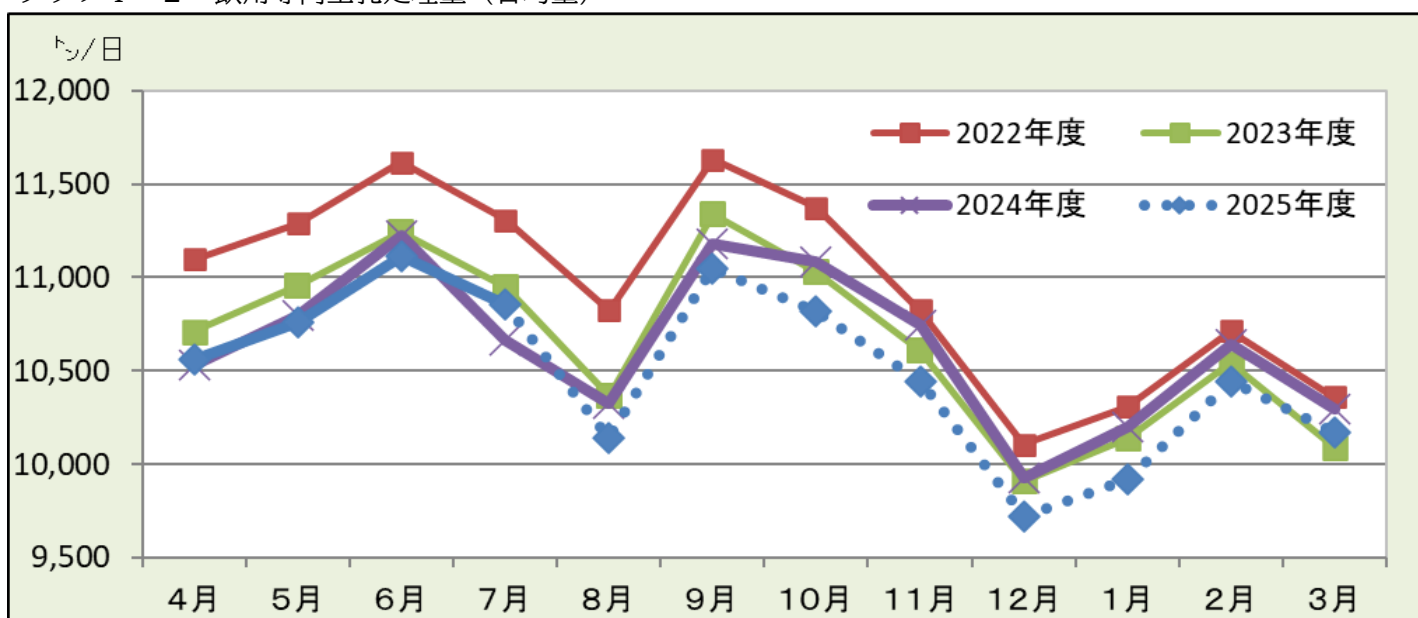
【2025年度の用途別処理量の見通し】生乳供給量は7,308千トン・前年比99.7%、飲用等向処理量は3,832千トン・同98.7%、乳製品向処理量は3,476千トン・同100.8%と見込んだ。乳製品向のうち、チーズ向は423千トン・同99.7%、生クリーム等向は1,217トン・同99.3%、脱脂粉乳・バター等向は、1,836千トン・同102.2%となる見通し。

【前回見通し(5/30)公表】生乳供給量は7,291千トン・前年比99.5%、飲用等向処理量は3,840千トン・同98.9%、乳製品向処理量は3,451千トン・同100.1%と見込んだ。乳製品向のうち、チーズ向は420千トン・同99.0%、生クリーム等向は1,209トン・同98.7%、脱脂粉乳・バター等向は、1,821千トン・同101.4%。

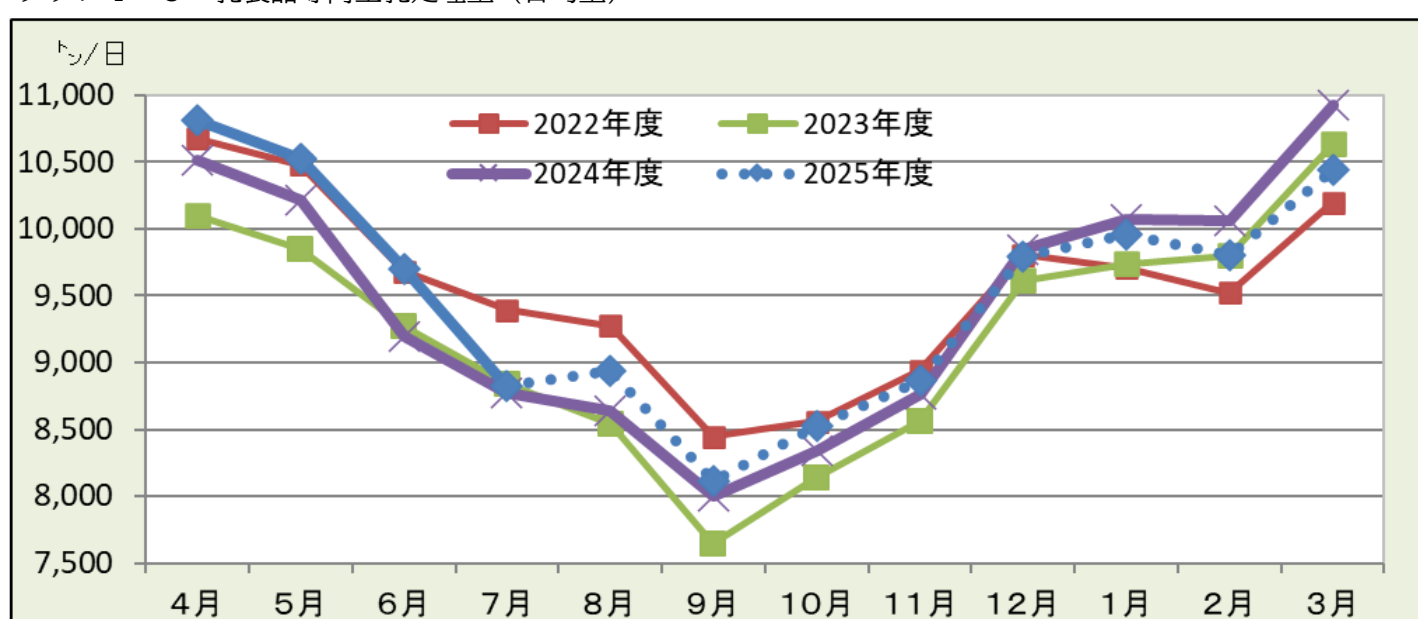
グラフ４－１：生乳供給量（日均量）



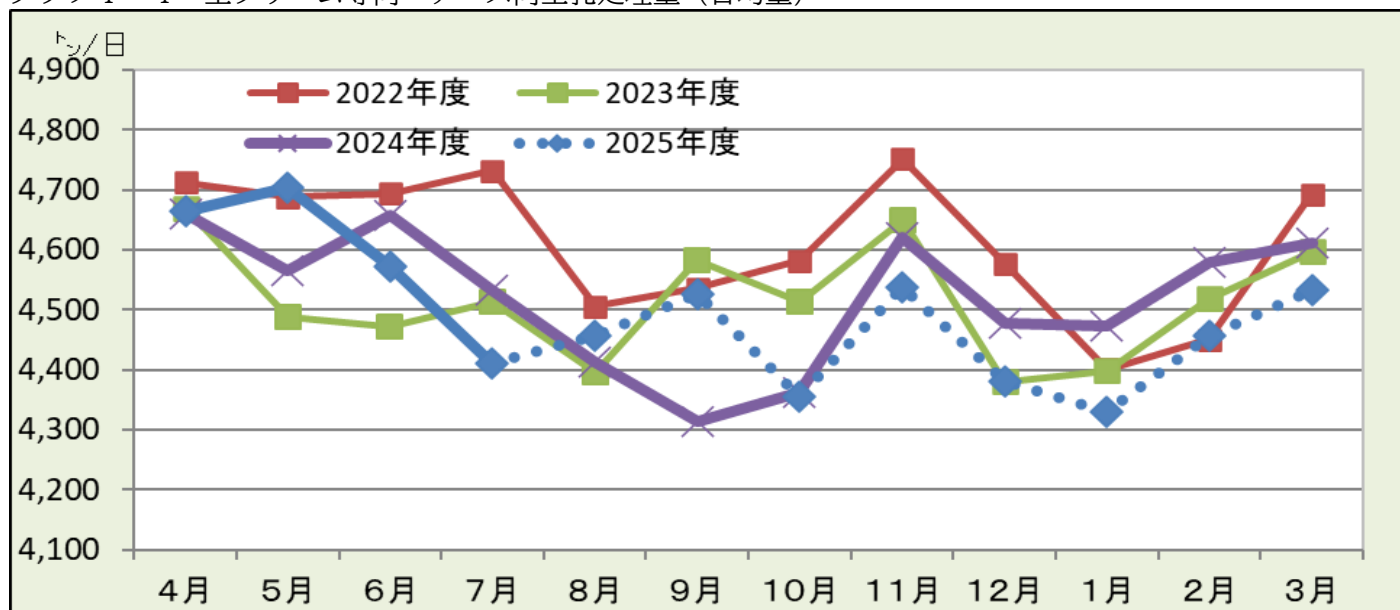
グラフ４－２：飲用等向生乳処理量（日均量）



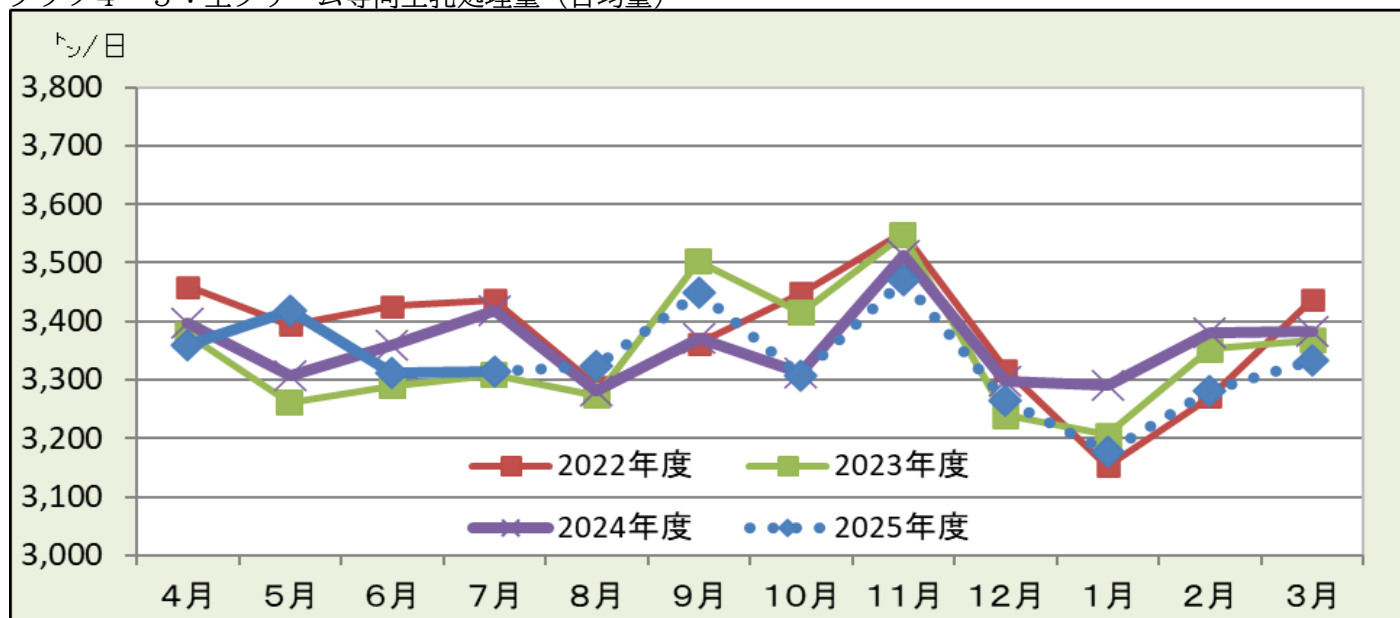
グラフ４－３：乳製品等向生乳処理量（日均量）



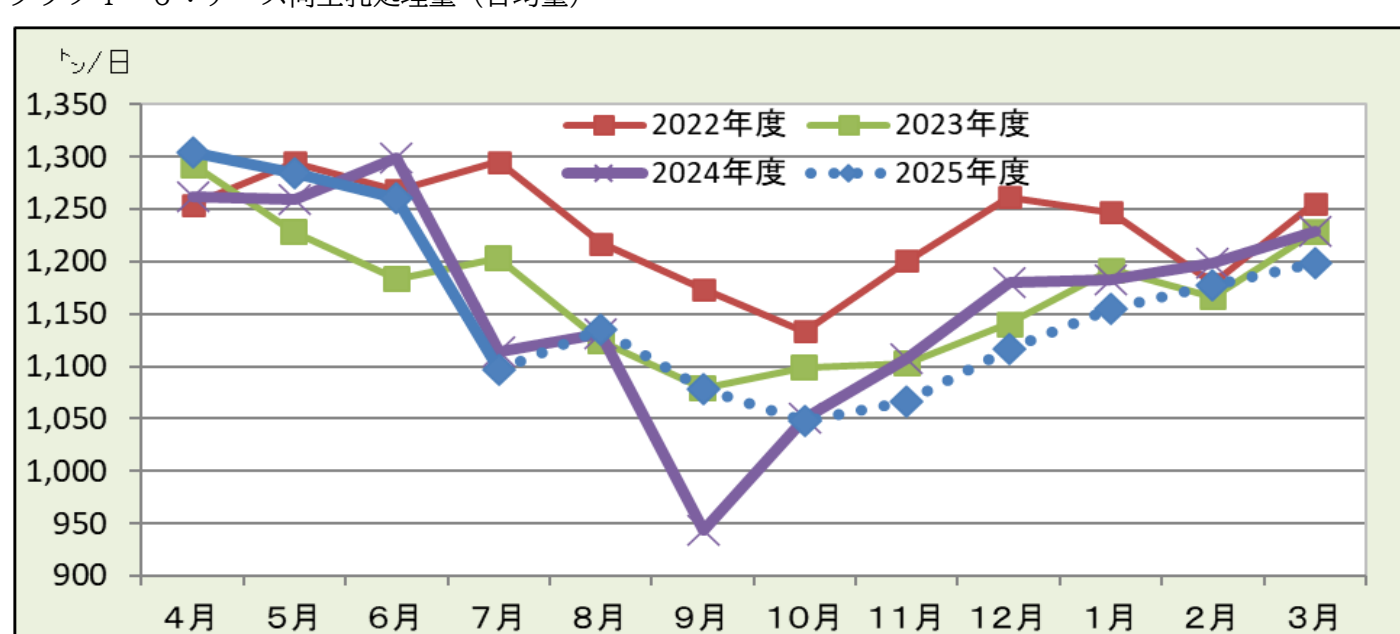
グラフ４－４：生クリーム等向・チーズ向生乳処理量（日均量）



グラフ４－５：生クリーム等向生乳処理量（日均量）



グラフ４－６：チーズ向生乳処理量（日均量）



5. 乳製品需給の動向

表5-1：2024年度の脱脂粉乳の需給（網掛け：実績）

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し	過不足	期末在庫量				推定出回り量
	A	前年比	B	前年比			A+B+C-D	前年比	月数	在庫対策を 除いた場合の 月数	
第1 四半期	47.7	74.0%	41.5	104.5%	0.2	6.5	54.2	78.5%	4.0	5.2	35.2 99.6%
第2 四半期	54.2	78.5%	31.4	107.3%	0.1	-5.2	49.1	83.6%	3.6	4.8	36.6 92.1%
第3 四半期	49.1	83.6%	36.5	105.2%	0.0	1.4	50.5	100.7%	4.0	4.9	35.1 81.2%
第4 四半期	50.5	100.7%	45.1	103.3%	0.3	1.5	52.0	109.0%	4.1	4.9	43.8 94.4%
上期	47.7	74.0%	72.9	105.7%	0.3	1.3	49.1	83.6%	3.6	4.8	71.8 95.6%
下期	49.1	83.6%	81.6	104.1%	0.3	2.9	52.0	109.0%	4.1	4.9	78.9 88.0%
年度計	47.7	74.0%	154.4	104.9%	0.6	4.3	52.0	109.0%	4.1	4.9	150.7 91.5%

※月数は、当該期末在庫数量÷直近1年間の出回り数量実績の1か月平均値で計算

126.8 102.7%
在庫対策を除いた場合の出回り量
(対等無1, 通常需要)

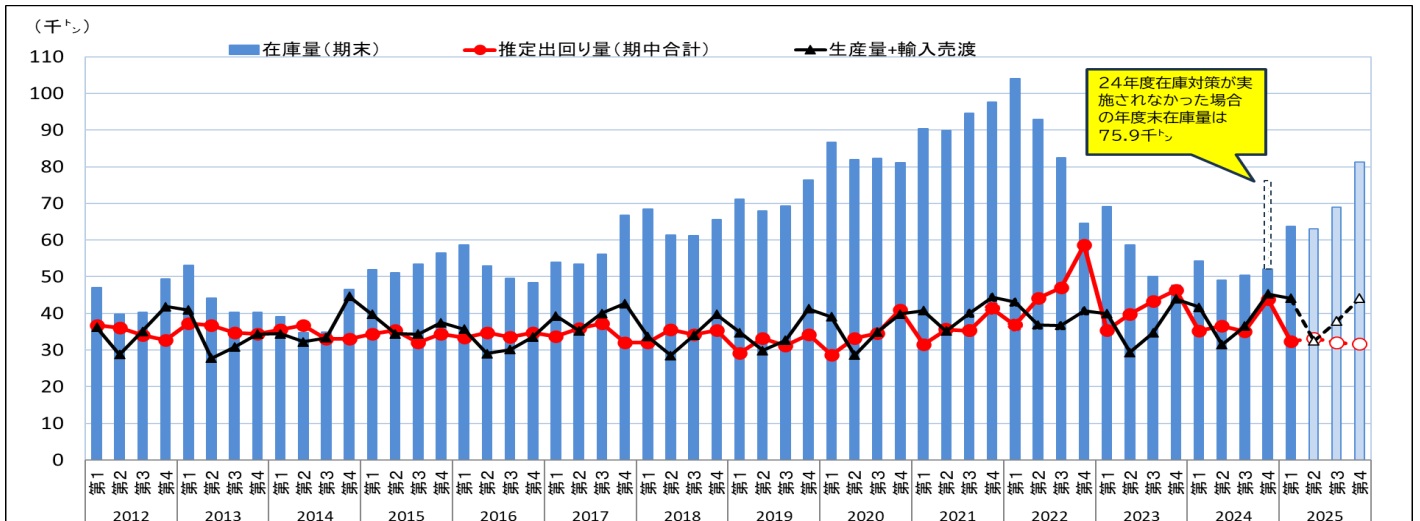
表5-2：2025年度の脱脂粉乳の需給（見通し）

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し	過不足	期末在庫量				推定出回り量
	A	前年比	B	前年比			A+B+C-D	前年比	月数	在庫対策を 除いた場合の 月数	
第1 四半期	52.0	109.0%	44.1	106.3%	0.0	11.8	63.8	117.6%	5.2	6.0	32.3 91.9%
第2 四半期	63.8	117.6%	32.2	102.5%	0.1	-1.0	62.8	128.0%	5.2	5.8	33.3 90.9%
第3 四半期	62.8	128.0%	37.7	103.2%	0.2	5.9	68.7	136.1%	5.8	6.3	32.0 91.0%
第4 四半期	68.7	136.1%	43.7	97.0%	0.3	12.4	81.2	156.0%	7.5	7.5	31.6 72.1%
上期	52.0	109.0%	76.3	104.7%	0.1	10.8	62.8	128.0%	5.2	5.8	65.6 91.4%
下期	62.8	128.0%	81.4	99.8%	0.5	18.3	81.2	156.0%	7.5	7.5	63.6 80.5%
年度計	52.0	109.0%	157.6	102.1%	0.6	29.1	81.2	156.0%	7.5	7.5	129.2 85.7%

※月数は、当該期末在庫数量÷直近1年間の出回り数量実績の1か月平均値で計算

101.9%
在庫対策を除いた24年度出回り量と
の比較

グラフ5：脱脂粉乳の生産量・輸入売渡・推定出回り量・在庫量（四半期毎）



【2025年度の脱脂粉乳需給の見通し】生産量157.6千トン・前年比102.1%、推定出回り量129.2千トン・同85.7%（2024年度の在庫対策数量を除いた値との比較は101.9%）となる見通し。輸入売渡し数量を0.6千トンと仮定すると、単年度ギャップは29.1千トンで、年度末在庫量は81.2千トン・同156.0%を見込む。

※：輸入売渡し数量は2025年度輸入枠から推定。TPP11、日EU・EPAによる民間貿易については考慮していない。

【前回見通し(5/30)公表】生産量156.3千トン・前年比101.2%、推定出回り量128.4千トン・同85.2%（2024年度の在庫対策数量を除いた値との比較は101.3%）。年度末在庫量は80.6千トン・同154.9%。

表5'-1：2024年度のバターの需給（網掛け：実績）

(千トン)

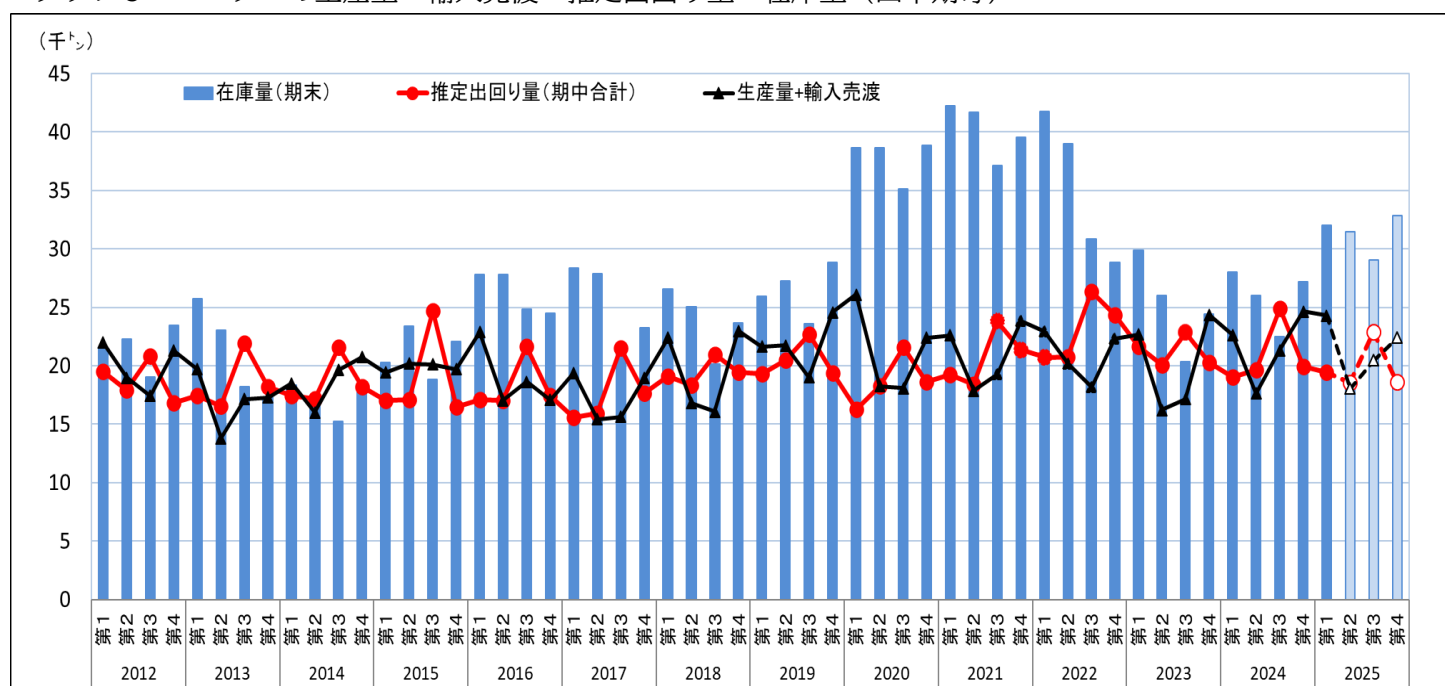
	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し	過不足	期末在庫量			推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比			A+B+C-D	前年比	月数	D	前年比
第1 四半期	24.4	84.7%	19.7	103.7%	2.9	3.6	28.0	93.8%	4.1	19.0	88.0%
第2 四半期	28.0	93.8%	14.4	106.2%	3.3	-2.0	26.0	100.1%	3.8	19.6	97.7%
第3 四半期	26.0	100.1%	16.6	111.5%	4.7	-3.5	22.5	110.7%	3.2	24.9	108.9%
第4 四半期	22.5	110.7%	22.0	104.5%	2.7	4.7	27.2	111.2%	3.9	20.0	98.5%
上期	24.4	84.7%	34.1	104.7%	6.2	1.6	26.0	100.1%	3.8	38.7	92.7%
下期	26.0	100.1%	38.6	107.4%	7.4	1.1	27.2	111.2%	3.9	44.8	104.0%
年度計	24.4	84.7%	72.7	106.2%	13.6	2.7	27.2	111.2%	3.9	83.5	98.4%

表5'-2：2025年度のバターの需給（見通し）

(千トン)

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し	過不足	期末在庫量			推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比			A+B+C-D	前年比	月数	D	前年比
第1 四半期	27.2	111.2%	21.5	109.0%	2.8	4.8	32.0	114.2%	4.6	19.4	102.1%
第2 四半期	32.0	114.2%	14.9	103.9%	2.6	-0.9	31.1	119.5%	4.5	18.5	94.0%
第3 四半期	31.1	119.5%	17.1	103.2%	3.3	-2.4	28.7	127.4%	4.3	22.9	92.0%
第4 四半期	28.7	127.4%	21.3	97.0%	1.1	3.8	32.5	119.5%	4.9	18.6	93.1%
上期	27.2	111.2%	36.4	106.9%	5.4	3.9	31.1	119.5%	4.5	37.9	98.0%
下期	31.1	119.5%	38.4	99.7%	4.4	1.4	32.5	119.5%	4.9	41.5	92.5%
年度計	27.2	111.2%	74.9	103.0%	9.8	5.3	32.5	119.5%	4.9	79.4	95.0%

グラフ5'：バターの生産量・輸入売渡・推定出回り量・在庫量（四半期毎）



【2025年度のバター需給の見通し】 生産量 74.9 千トン・前年比 103.0%、推定出回り量 79.4 千トン・同 95.0% となる見通し。輸入売渡しを 9.8 千トンと仮定すると、単年度ギャップは 5.3 千トン、年度末在庫量 32.5 千トン・同 119.5%を見込む。

※輸入売渡数量は 2024 年度および 2025 年度の輸入枠から推定した。TPP11、日 EU・EPA による民間貿易については、加味していない。

【前回見通し(5/30)公表】 生産量 73.6 千トン・前年比 101.3%、推定出回り量 79.3 千トン・同 95.0%、年度末在庫量 31.1 千トン・同114.5%。

表6－1：2024年度の都府県の需給（網掛け：実績）

（千トン）

	生乳供給量		飲用等向 処理量		生クリーム等向・ チーズ向		A-B-C	移入量 (道外移出量)D		脱脂粉乳・ バター等向	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比			前年比		前年比
4月	278	100.1%	270	98.2%	5	95.7%	2	33	104.9%	34	125.8%
5月	282	100.5%	288	98.6%	5	94.9%	-11	38	100.1%	27	128.0%
6月	262	100.3%	290	100.1%	5	93.0%	-32	45	97.7%	13	97.6%
7月	249	97.0%	283	97.9%	5	96.4%	-39	51	99.3%	12	86.3%
8月	238	97.0%	273	99.6%	5	99.0%	-39	52	107.4%	13	82.8%
9月	233	97.6%	286	98.6%	4	94.0%	-57	63	104.2%	6	125.5%
10月	250	98.5%	295	100.4%	5	86.5%	-49	57	107.0%	8	91.4%
11月	246	99.7%	275	101.0%	5	97.1%	-34	44	109.0%	10	102.6%
12月	258	98.9%	264	100.1%	6	97.6%	-12	38	108.5%	27	99.7%
1月	265	99.4%	271	100.2%	5	102.6%	-11	39	108.8%	28	103.7%
2月	245	95.6%	255	97.1%	5	100.5%	-14	35	105.6%	21	91.3%
3月	281	99.6%	270	101.2%	6	100.3%	5	34	116.0%	39	100.9%
第1四半期	822	100.3%	849	99.0%	15	94.6%	-42	116	100.4%	75	120.5%
第2四半期	720	97.2%	842	98.7%	14	96.5%	-136	167	103.6%	31	90.0%
第3四半期	754	99.0%	834	100.5%	15	93.9%	-95	140	108.0%	44	98.8%
第4四半期	791	98.3%	796	99.5%	15	101.1%	-20	109	109.9%	88	99.3%
上期	1,542	98.8%	1,691	98.8%	29	95.5%	-178	283	102.3%	105	109.7%
下期	1,545	98.6%	1,629	100.0%	31	97.3%	-115	248	108.8%	133	99.1%
年度計	3,087	98.7%	3,321	99.4%	60	96.4%	-293	531	105.2%	238	103.5%

表6－2：2025年度の都府県の需給（見通し）

（千トン）

	生乳供給量		飲用等向 処理量		生クリーム等向・ チーズ向		A-B-C	移入量 (道外移出量)D		脱脂粉乳・ バター等向	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比			前年比		前年比
4月	277	99.8%	272	100.6%	5	98.0%	-0	36	109.0%	35	102.6%
5月	282	100.0%	288	99.8%	5	101.5%	-11	40	104.6%	29	108.3%
6月	260	99.3%	287	98.8%	5	98.9%	-31	46	102.0%	16	120.5%
7月	249	100.0%	286	100.9%	5	96.6%	-42	52	101.7%	11	88.6%
8月	236	99.3%	268	98.4%	5	100.0%	-37	54	103.7%	18	136.8%
9月	233	99.7%	283	98.6%	4	100.0%	-54	65	103.0%	11	187.6%
10月	248	99.3%	288	97.6%	5	100.0%	-44	55	96.8%	11	143.3%
11月	242	98.3%	267	96.9%	5	100.0%	-30	43	98.5%	14	138.0%
12月	253	98.1%	257	97.6%	6	100.0%	-10	38	99.5%	28	105.2%
1月	258	97.4%	263	96.9%	5	100.0%	-10	39	99.8%	30	104.7%
2月	239	97.5%	249	97.8%	5	100.0%	-15	35	99.9%	21	97.5%
3月	272	96.8%	267	98.8%	6	100.0%	-1	35	104.6%	35	88.7%
第1四半期	820	99.7%	846	99.7%	15	99.4%	-41	122	104.8%	81	107.8%
第2四半期	718	99.7%	836	99.3%	14	98.8%	-132	171	102.8%	39	127.4%
第3四半期	743	98.6%	812	97.4%	15	100.0%	-84	137	98.1%	53	119.2%
第4四半期	769	97.2%	779	97.8%	15	100.0%	-25	110	101.3%	85	95.9%
上期	1,538	99.7%	1,683	99.5%	29	99.1%	-174	293	103.6%	120	113.5%
下期	1,512	97.9%	1,590	97.6%	31	100.0%	-109	247	99.5%	138	103.7%
年度計	3,049	98.8%	3,273	98.6%	59	99.6%	-283	540	101.7%	257	108.0%

【2025年度都府県の生乳需給の見通し】生乳供給量は3,049千トン・前年比98.8%、飲用等向処理量は3,273千トン・同98.6%。北海道から都府県への移入量(道外移出量)は、540千トン・同101.7%となる見通し。
 【前回見通し(5/30)公表】生乳供給量は3,032千トン・前年比98.2%、飲用等向処理量は3,285千トン・同98.9%、道外移出量は、553千トン・同104.1%。

7. 需給動向を踏まえた当面の課題と対応について

(1) 夏季の生乳需給への対応について

気象庁によれば、今年6月の全国平均気温は平年より2.34℃高く、観測史上最も暑い6月となった。7月以降も平年より高い気温が見込まれており、今年度も猛暑による生乳生産への影響が懸念される。こうした中、酪農現場では、暑熱による生産基盤へのダメージを最小限に抑えるため、暑熱対策を含めた適切な飼養管理が不可欠となる。

飲用牛乳の需要が最も高まる9月には、北海道を含む広域的な配乳調整で対応する必要がある。猛暑の影響によっては生乳生産がさらに減少する可能性があるほか、台風などの自然災害により生乳輸送に支障をきたす懸念もある。このため、酪農乳業関係者は需給に関する情報を綿密に共有し、供給不足による混乱を回避できるよう、広域流通体制や地域ごとの需給動向に応じた配乳調整を推進する必要がある。

(2) 国産牛乳乳製品の需要拡大に向けて

コメをはじめとした飲食料品全般の価格上昇が続く中、消費者の節約志向が強まり牛乳類の消費は伸び悩み、今年5月の牛乳等向け乳量（日均量）は8か月ぶりに前年実績を下回った。7月は気温の上昇に伴いやや回復が見られるものの、8月以降は飲用等向け乳価改定に伴う製品価格の値上げにより再び消費減退が懸念される。

このような背景から、牛乳乳製品の需要拡大に向けた取り組みが不可欠であり、その際には、国産牛乳乳製品が持つ価値や魅力を積極的に発信しながら消費者への訴求力を高めていくことが重要となる。酪農乳業関係者は、より多くの関係者に対して需要拡大の必要性を訴えるとともに、業界内でも課題意識を共有し、各自の活動が相乗効果を生むような連携を図りながら、実需につながる効果的な取り組みを業界一体となって進めていく必要がある。

また、乳製品のうち脱脂粉乳は、製品ベースで見ると単年度の需給で生産量が需要量を上回る需給ギャップが課題となっている。一方、国産バターについては、依然として国内生産量が需要を下回っている。生乳の安定供給に向けては、こうした脱脂粉乳とバターの需給不均衡という構造的課題の解決が急務である。特に、無脂乳固形分（SNF）の有効活用を促進するための新たな製品開発や需要創出に向けた施策の推進が求められる。

脱脂粉乳の主要な仕向け先であるヨーグルトの需要拡大に向けては、（一社）日本乳業協会がヨーグルトの水分保持効果に着目した広告活動「夏の猛暑に、ヨーグルト」を開始している。今後も、多様な立場や視点からヨーグルトが持つ魅力や価値のPR等を積極的に行う業界一体の取り組みを一層推進することが重要と考えられる。

(3) 生産基盤の強化・維持に向けて

本年4月に策定された新たな「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針（酪肉近）」では、人口減少が進む中においても国産牛乳乳製品の需要拡大を図ることが掲げられ、その取り組みの成果を毎年評価しながら生産拡大の必要性を継続的に検証していくことが明記された。酪肉近の内容を踏まえ、前述の（2）における需要拡大の取り組みを業界全体で着実に進めるとともに、生産基盤のさらなる維持・強化に向けた取り組みも積極的に推進していく必要がある。

Jミルクでは、生産基盤の棄損を回避しながら需給変動に迅速に対応するための保険的制度として、2025年度から「酪農乳業需給変動対策特別事業」を開始しており、全国の生産者および乳業者の参画により乳製品の過剰在庫の発生を未然に防ぐなど需給変動の影響を最小限にとどめることが求められる。